

事業計画の概要

平成18営業年度 新潟管理局

１．はじめに

東日本高速道路株式会社は、政府の特殊法人改革により、平成１７年１０月１日に設立、スタートいたしました。

東日本高速道路株式会社は、『お客様に信頼され真に国民のためになる』ことを目指し、次の経営方針を掲げています。

- ・ 高速道路をご利用されるお客様とのふれあいを第一に、お客様の満足の向上に努めます。
- ・ 徹底したコスト削減のもと、効率的な経営を行い、高速道路の貸付料を着実に支払います。
- ・ 談合等の不正防止やファミリー企業の見直しなど、公正・透明な経営を通じ、信頼性の向上に努め、企業の社会的責任（ＣＳＲ）を果たします。

東日本高速道路株式会社としては、これらの方針を実現していくため、平成１８年度以降の具体的な経営方針・経営目標（数値目標）を定める『中期経営計画』を本年１０月を目途に策定することとしています。

平成１８営業年度事業計画は、東日本高速道路株式会社として初めて１年間を通した事業計画であるとともに、今般日本高速道路保有・債務返済機構との間で締結した高速道路事業に関する協定の内容に従い、かつ、それぞれの施策はこれから策定する『中期経営計画』にもつながっていくものです。

今年度は民営化会社として本格的なスタートを切る年であり、公団時代の事業運営方式から脱却し、株式会社としての経営のしくみを形づくっていく重要な時期ととらえ、会社全体が進むべき方向を見定めつつ、それぞれの施策を着実に実行していきます。

2 . 計画概要

- 平成 1 8 営業年度事業計画は、日本高速道路保有・債務返済機構との協定締結により、本格的に民営化の枠組みが動き出して初めての事業計画であり、高速道路事業については基本的に協定の内容に整合したものとしています。

○平成 1 8 年度事業費

項 目	事業費
高速道路管理費	1 4 4 億円
道路維持管理費	1 1 0 億円
道路業務管理費	3 4 億円
高速道路新設・改築費	9 7 億円
高速道路修繕費	5 2 億円
合 計	2 9 3 億円

3. 高速道路建設事業の事業計画

平成１８営業年度の高速道路の新設、改築事業については、約９７億円の事業費により、早期の高速道路ネットワーク形成を目指し事業を進めます。

- 平成18営業年度は、日本海東北自動車道（中条～荒川）の新設事業、上信越自動車道（豊田飯山～信濃町）の4車線化事業を推進します。
- 事業実施にあたっては、コスト削減への継続的な努力を前提に、信頼性の高い高速道路ネットワークを構築するため、機構との協定に基づき計画的かつ重点的な高速道路整備を行うとともに、その機能の向上・強化を図ります。

日本海東北自動車道（中条～荒川）の新設事業の推進
《平成21年度の開通を目指し、事業の推進を図ります》

■事業概要

日本海東北自動車道（中条～荒川）は、平成１４年度に開通した新潟空港～中条間と接続し、並行する一般国道７号等の交通混雑の緩和や県北地域への観光産業、経済交流等の活性化に寄与する重要な道路です。

■平成18年度事業

平成１７年度に中条ＩＣ（仮称）付近及び荒川ＩＣ（仮称）付近の本線土工工事を発注しており、平成１８年度については、残る本線土工工事等を発注し、工事の全面展開を図ります。



本線工事用道路として先行整備された
胎内川に架かる胎内川橋



本線工事に先立ち実施している載荷盛土工事（荒川 IC 付近）

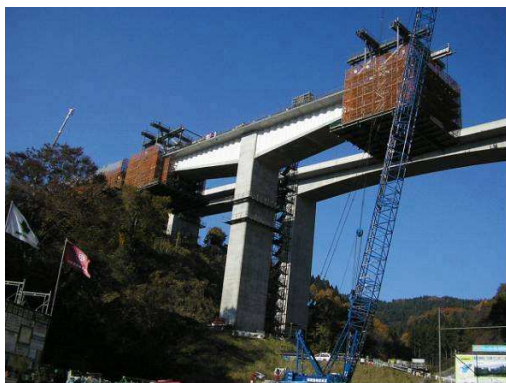
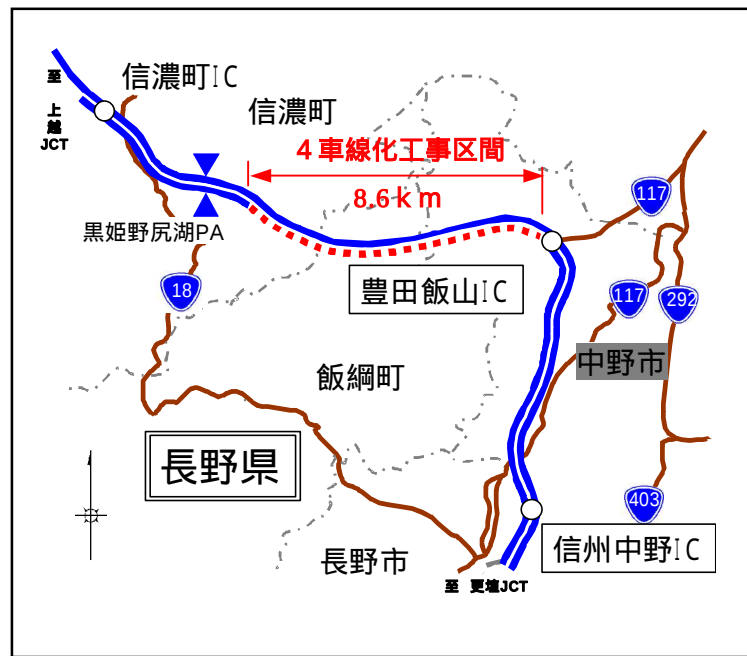
上信越自動車道（豊田飯山～信濃町）の4車線化事業の推進 《平成21年度の開通を目指し、事業の推進を図ります》

■事業概要

長野県と新潟県を結ぶ動脈としての役割を担い物流・観光等に大きく寄与している上信越自動車道（豊田飯山～信濃町）の4車線化事業は、交通集中による渋滞の解消、観光地などへのアクセス向上を図ることで、更なる観光産業、経済交流等の活性化に寄与する重要な事業です。

■平成18年度事業概要

全線にわたり工事に着手しており、平成18年度については、残る本線橋梁工事を発注し、工事の鋭意進捗を図ります。



日向橋の橋梁架設工事の状況



薬師岳トンネルの掘削状況

4 . 高速道路管理事業の事業計画

安全で円滑な交通を確保するとともに、お客様に満足していただけるサービスを提供します。

また、トータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

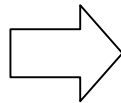
○安全で快適な走行環境を確保するため、交通安全対策を推進するとともに、舗装の高機能化など道路機能の維持・向上を図ります。

- 安全で安心してご利用いただけるよう、路面や構造物、施設設備などの維持・点検に努めます。

- 雨の日の水はけが良い高機能舗装化を進め、走行環境を向上させます。
 - ・北陸道などで高機能舗装化を進めており、平成18年度末では新潟管理局管内の**高機能舗装率は約5割**となります。



路面の切削



アスファルト舗装の舗設



通常舗装

高機能舗装

- 地域の交通特性、お客様のニーズを反映した、より安全で効率的な工事規制の実施に努めます。
- ・更なる工事の集約、期間・時間帯の厳選を行うことにより、路上工事による**車線規制時間の約1割削減**を目指します。

○道路の定時性を確保するため、通行止時間の削減を目指すとともに、道路情報提供の充実を図ります。

- 関係機関との連携により通行止の際には迅速な交通の回復に努め、通行止時間の短縮を図ります。

- ・迅速・効率的な作業・点検等により通行止時間の短縮を目指します。

- 渋滞時速度回復情報や渋滞予測情報の提供などを実施するなど、渋滞緩和に努めます。

- 情報提供機器をより有効に活用し、リアルタイムで詳細な情報提供の更なる充実に努めます。



渋滞時速度回復情報

- 通行止発生時には、開通を待たれているお客様に対して、様々な手段により、通行止解除に向けた作業状況などの情報を提供していくよう努めます。

- ・休憩施設エリア内の拡声器などによる情報提供、料金所での情報提供、電話での対応、マスコミへの情報提供等、様々な手段によりできる限りの情報を提供するよう努めます。

○冬期間の交通を確保するため、雪氷作業や雪氷対策設備の更なる充実を図るなど、雪に強い道路を目指します。

- 冬期間の気象変化に対してもできる限り交通を確保するよう、地域・気象特性に即した雪氷作業を行います。

- ・地域・気象特性を考慮し、道路の特性に応じた雪氷作業や、効率的な除雪車の配置等に取り組みます。

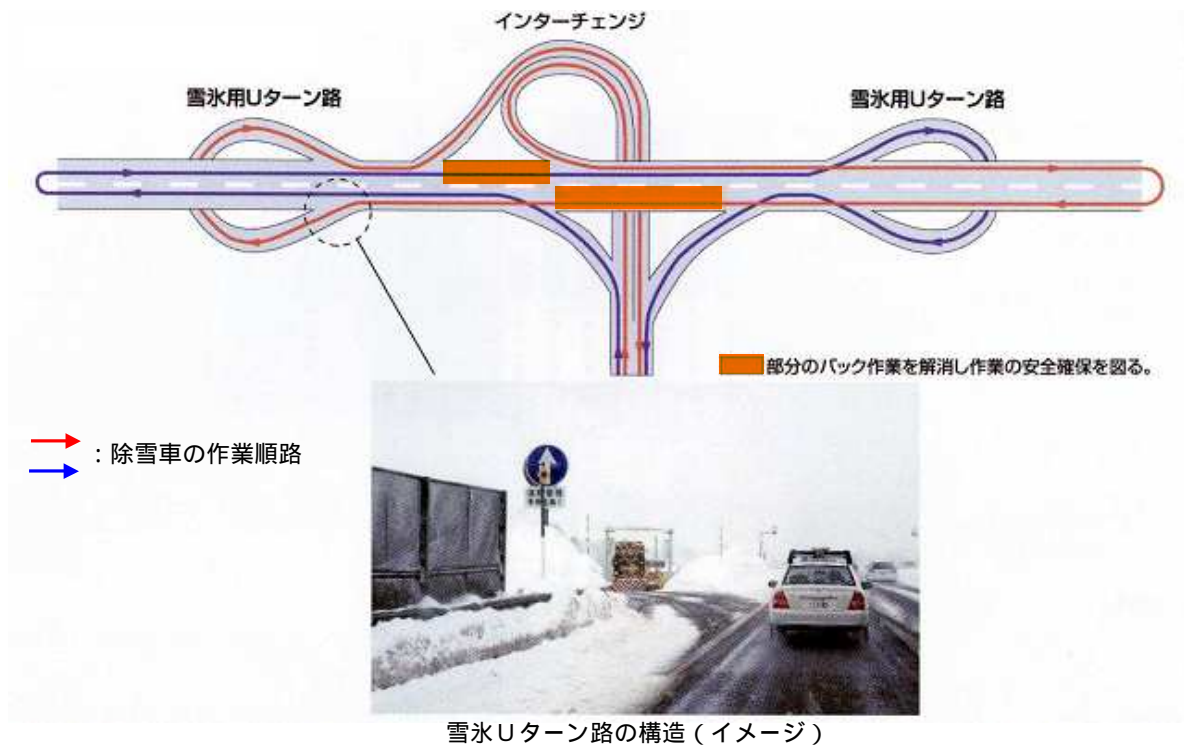


除雪トラックによる車線新雪除雪



ロータリー車による路肩拡幅除雪

- 除雪車Uターン路などの雪氷対策設備を設置し、雪氷作業性の向上を図ります。
 - ・ 関越道の六日町IC付近に新たに除雪車Uターン路を設置し、除雪作業時のインターチェンジノーズ間のバック作業を避け、安全性を確保するとともに、作業効率の向上を図ります。



- 冬季の広報活動を充実させます。
 - ・ ホームページを活用して、各道路のリアルタイムな気象状況（気温・路温・風速・画像情報）及び降雪予想や気象予報等を提供します。
 - ・ 大雪が予想される場合、広域情報板、ハイラジ及びハイテレにて事前広報を実施し、情報提供を行います。
 - ・ 大雪が予測される場合には、臨時に情報板を設置します。

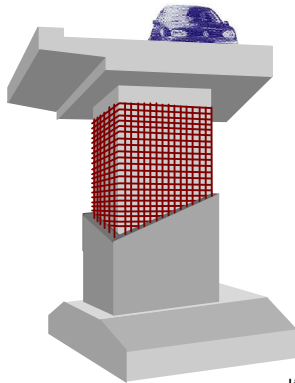


臨時に設置した情報板

○災害に強い道路ネットワークを構築するため、橋梁の耐震補強など防災対策を推進します。

●阪神・淡路大震災クラスの大地震にも耐えられるよう、対策が必要な橋梁の補強¹を行っています。

・北陸道と関越道で橋梁の補強を行い、平成18年度末では当該路線の橋脚耐震補強完了率が約6割となります。



橋脚の耐震補強

1 昭和55年の道路橋示方書より古い基準を適用した橋梁で、耐震補強を必要とする橋脚

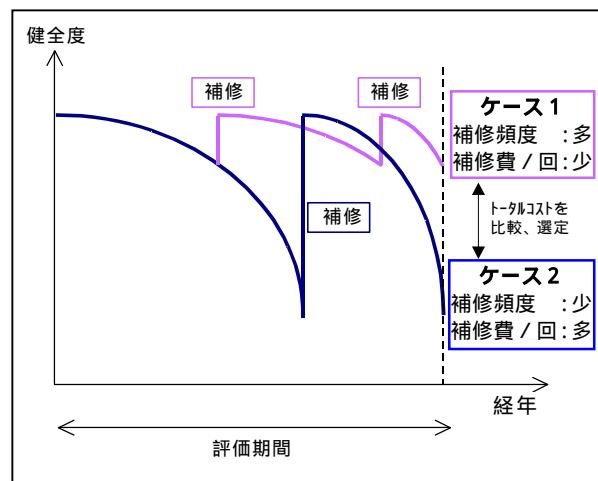
○技術開発を推進することなどによりトータルコストを削減し、効率的な道路管理に取り組みます。

●新技術の開発を進め、また新工法を採用するなど、コスト削減を目指します。

●ライフサイクルコストの最小化を図るマネジメント手法を導入するなどし、道路構造物の延命化を図るなど、効率的・効果的な道路管理に取り組みます。



日本海の荒波を受ける親不知海岸高架橋



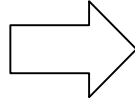
構造物のライフサイクルコスト（イメージ）

○環境の保全に配慮した道路管理に取り組みます。

- CO_2 の吸収・固定などの地球温暖化防止に資するため、盛土のり面の樹林化を進めます。
- 北陸道、関越道で盛土のり面樹林化を行い、平成 18 年度末で盛土のり面樹林化完了率が約 8 割となります。



樹林化施工直後の状況

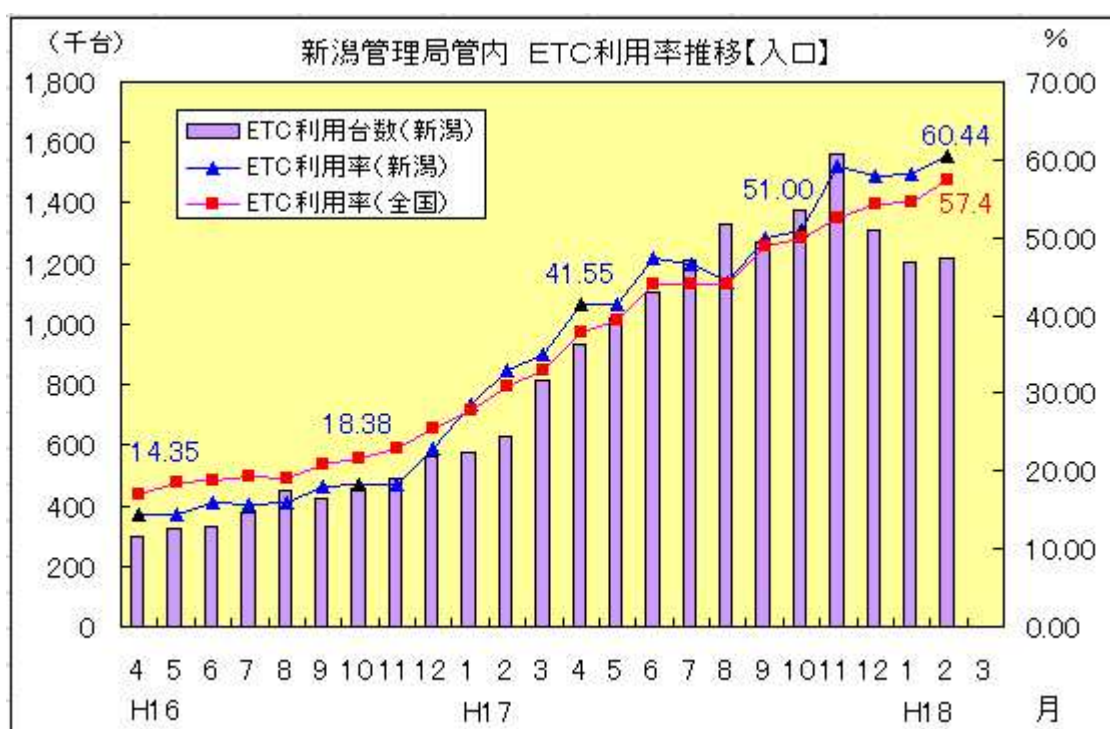


樹林化施工 4 年後の育成状況

- 循環型社会の育成に資するため、建設発生土、コンクリート塊、アスファルトコンクリート塊などの建設副産物のリサイクルを推進します。
- 植物発生材の堆肥化など緑のリサイクルを推進し、循環型社会の形成に貢献します。

○ ETCの利便性向上、ETCを活用した弾力的な料金設定、接客マナーの向上などお客様サービスの充実に取り組みます。

- ETCを活用してお客様に満足していただけるような料金サービスを展開していきます。
・マイレージサービスを活用した車載器購入支援策（600ポイント付加）を継続します。
- 二輪車ETCについて関係機関と連携し、今秋の本格導入を目指します。
- 接客マナーを向上させ、お客様に気持ち良くご利用していただけるよう努めるとともに、割引料金を分かりやすくご案内するなど、お客様の声に適切にお応えしてサービスの向上に努めます。
- ETCの利用促進に向け、更なる普及促進策・利便性の向上に努めます。



○国土交通省及び自治体が実施する休憩施設（ＳＡ・ＰＡ）に接続するスマートＩＣの社会実験に積極的に協力します。

- スマートＩＣとは、「ＥＴＣ専用のインターチェンジ」のことです。従来に比べコンパクトにインターチェンジの設置が可能のため、高速道路の通過地域だった休憩施設などにスマートＩＣを設置することにより、周辺地域のアクセス性の向上、高速道路の利便性の向上が期待され、かつ高速道路の有効活用につながることから導入が検討されているものです。
- 平成１８年度は、平成１７年度までの実験での把握した運用上の課題等を検討するため、引き続き実験が行われます。
- また、日本海東北自動車道の豊栄ＳＡ、北陸自動車道の大湊ＰＡにおいて、新規に実験が開始されます。

【スマートＩＣ社会実験箇所の状況】

道路名	休憩施設名	利用台数(*1)	実験期間
北陸自動車道	黒埼ＰＡ	約３９０台/日	平成１６年１２月２４日～平成１８年９月３０日
関越自動車道	大和ＰＡ	約２３０台/日	平成１７年６月１日～平成１８年９月３０日
上信越自動車道	新井ＰＡ	約３４０台/日	平成１７年１月１１日～平成１８年９月３０日
日本海東北自動車道	豊栄ＳＡ	-	平成１８年４月４日(*2)～平成１９年３月３１日
北陸自動車道	大湊ＰＡ	-	平成１８年５月２日(*3)～平成１９年３月３１日

*1:利用台数は、実験開始時から平成１８年２月末までの日平均利用台数(速報値)。

*2:平成１８年４月４日(火)午後２時からご利用になれます。

*3:平成１８年５月２日(火)午後１２時からご利用になれます。

豊栄ＰＡスマートＩＣ



黒埼ＰＡへ流入する車輛



○ 地域、関係機関、他の高速道路会社等との連携を強化し、高速道路による社会への貢献を目指します。

- 地域のイベントに積極的に参加して利用促進を図るなど、地域に根付いた高速道路を目指します。
 - ・ 大規模なイベントだけでなく、高速道路の沿道で行われる清掃等のボランティア活動などにも参加していきます。
- 常に安全で安心して円滑にご利用いただき、高速道路が地域のくらしの向上に寄与するよう、道路管理を適切に行います。
 - ・ 管内の事務所で、建設中や供用中の道路の現場を公開して、地域の皆様に高速道路を身近なものとして感じていただけるよう努めていきます。
 - ・ 関係機関と共同で交通安全運動を展開して、交通事故の軽減に努めます。
- 大規模災害時には、関係機関や他社との連携を図り、高速道路が緊急輸送路として迅速かつ円滑に機能するよう努めます。



○ ボランティアや地域の皆様と高速道路周辺の清掃



○ 研究機関（大学）等の皆様への現場公開
（日本海東北自動車道 荒川橋）



○ 地域の皆様への現場公開
（上信越自動車道 薬師岳トンネル）



○ 交通安全キャンペーン
（北陸自動車道 黒崎PA）

５．サービスエリア・パーキングエリア事業の事業計画

サービス水準の向上と個性的なサービスを展開し、お客様にご満足を提供するとともに、収益の拡大を目指します。

- 収益向上に向け、各エリアでのサービスレベルの向上を目指す「礎づくり」と、立地の特性に応じて個性的なサービスを展開する「華づくり」という２つの面を同時に追及し、サービスエリア・パーキングエリアの魅力を高めます。

礎＝広い範囲内のお客様に共通するニーズに的確にお応えするための飲食・物販施設の積極的導入

華＝土産品や地場で採れた野菜など、そのＳＡ・ＰＡならではの地域商材や、そこでしか食べられない地場料理の提供

- 管理・運営事業としては、４月１日に財団法人より事業の譲渡を受け、当社全額出資の子会社「ネクセリア東日本株式会社」と一体となり、北陸自動車道米山サービスエリアなど計４４箇所の管理・運営を行います。

ＳＡ・ＰＡの施設の設置状況（平成１８年３月１日現在） 上下線別

ＳＡＰＡの施設箇所数	うち飲食物販施設を有する施設	うちガステーションを有する施設
４４箇所	２７箇所	１２箇所